



平成 22 年 3 月 10 日

各位

株式会社 ストリーム
代表取締役社長 劉 海濤
(コード番号：3071 東証マザーズ)
問合せ先 取締役副社長 竹下謙治
(TEL03-5256-7684)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 9 月 2 日に公表した平成 22 年 1 月期通期の連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせ致します。

記

1. 平成 22 年 1 月期 通期連結業績予想の修正(平成 21 年 2 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	34,587	110	111	55	1286.55
今回修正予想(B)	33,655	109	122	76	1920.91
増減額(B-A)	▲932	▲1	11	21	634.36
増減率(%)	▲2.7%	▲0.9%	9.9%	38.1%	—
ご参考：前期実績	29,136	213	241	143	3423.54

単位：百万円、円

2. 修正の理由

(連結業績予想)

わが国経済は政府による景気対策や輸出が回復するなど一昨年の金融ショック以降の不調から立ち直りつつあります。一方、雇用情勢の悪化やデフレ傾向など国内消費厳しい状況となっております。

平成 22 年 1 月期にインターネット通販事業の 2 社を新たに連結子会社化し非常に厳しい経営環境の中、顧客層の拡大と収益の拡大を目指しました。

当社を含めたこれらインターネット通販 3 社による事業協働は開始時こそ一部収益機会の損失があったものの、3 社の仕入・物流・販売の一元化によるシナジー効果と商品別にはエコポイント制度による薄型テレビの販売が堅調に推移したことなどもあり年度前半の大幅な不振を一部カバーすることができました。又、中国で展開している連結子会社である上海ストリームが中国経済の好調さを受け計画に比して全般に堅調に推移し売上高及び営業利益は前回発表予想に対して小幅な減収減益に収まりました。一方、中国の塗料事業において一部出資を行っている現地企業からの受取配当や保有していた有価証券の売却益もあり経常利益は予想を上回りました。更に、販売時点で全額引当を行っているポイントを使用率により取り崩したことによる特別利益 22 百万円を計上しました。主にこれらの要因により業績修正を行うに至りました。

以上